

～遅ればせながら…今年度開催された2つの研修会の様子をご報告します！～

去る7月26日(火)に幕別町忠類にて、十勝管内の小中学校教員を対象とした教員対象研修会が、そして8月19日(金)には、将来栄養教諭になるための勉強をしている大学生を対象にした研修会が行われました。今回参加者は、教員対象研修会では6名、学生対象研修会では8名とどちらも少人数の研修会となりました。しかし、その分ひとりひとり違う視点から見た意見や感想、アイデアがじっくり聞いて参考になったという声が、参加者・関係者含め聞くことが出来ました。

今回の体験会場を快く提供いただきました岩谷さん、準備から一生懸命に取り組んでくださったとわの森三愛高校のみなさん、お忙しい中ご参加・お手伝い下さいました酪農関係者の皆さん、本当にありがとうございました！

十勝管内 小中学校教員対象

酪農教育ファーム研修会

～酪農教育ファームで学ぶ「食」と「しごと」と「いのち」～

会場： 〔座学〕 ナウマン温泉ホテルアルコ 〔酪農体験〕 iふぁーむ岩谷牧場

7月26日(火)、十勝管内の一般教諭3名・栄養教諭3名の合計6名の参加者ととも研修会を行いました。

今回の研修会では、若手の方や初めて研修会にご参加いただいたファシリテーターの方も多く、酪農体験での岩谷さんの説明の仕方や魅せ方、普段聞く機会が少ない他の牧場の話、参加者である教員が何を目的として酪農体験を授業に取り入れたくて、体験の前後でどんな授業をしているのか。たくさんのお話を聞くことができ、大変勉強になったとの感想も聞け、充実した研修会となりました。

今回ご参加いただいた方々は以下の通りです。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ○リパティヒル広瀬牧場 廣瀬 文彦 氏 | ○むらかみ牧場 村上 隆彦 氏 |
| ○RichesHill's 富岡 一也 氏 | ○ハイジ牧場 作田 なるみ 氏 |
| ○白馬牧場 白馬 照泰 氏 | ○カントリーファーマーズ藤田牧場 藤田 磨美 氏 |
| ○松岡牧場 松岡 智子 氏 | ○菊地ふぁーむ 菊地 亮太 氏、亜希 夫人 |
| ○iふぁーむ岩谷牧場 岩谷 史人 氏、智恵 夫人 | |
| ○(社)北海道栄養士会 山際 睦子 氏 | |
| ○浦幌町立上浦幌中央小学校 校長 野上 泰宏 氏 | |
| ○浦幌町立上浦幌中央小学校 教員 竹中 愛貴 氏 | 他事務局4名 |

開会式&酪農講座

開会の挨拶 ◆広瀬文彦 委員長◆

『なぜ私が教育ファームの活動をしているか』をテーマに、ペットと家畜の違いや、言葉を発しない牛からの要望にどう応えるかなど、普段の何気ない牧場の様子を交えながらお話ししました。

食育について ◆山際睦子 副委員長◆

「食育って学校でどうしたらいいのかピンとこないという言葉をよく聞く」ということから、食育の法律的な部分の解説と、教育ファームに絡めた実践例を紹介いただきました。

実践事例紹介 ◆野上泰宏 校長先生◆

大都会東京の酪農の歴史を出発点にして、総合的な学習の時間で大切な「子ども達自らが疑問を持ち、相談し考える」というプロセスをふむことで、自分たちが住む“地域”について知る授業を紹介していただきました。

実践事例紹介 ◆竹中愛貴 先生◆

昨年小学二年生3名と一緒に鹿追の藤田牧場にて、生活科の体験学習を行った時の事例紹介。発表が苦手な子達だったが、実際に体験したことで胸を張って上級生に発表も出来た等、体験前後の子供たちの変化と共に話していただきました。

酪農について ◆菊地亮太さん◆

酪農教育ファームを始めたきっかけや、酪農体験を通じた日頃の想いや願いをお話いただきました。

せっかく十勝で育った子供たちなので、教育ファームを利用して自分たちが生まれ育った場所で生産されているものが、全国の人に喜ばれていることを知ってもらいきっかけにしてほしい。そして将来都会の子たちに自慢できるようになってほしい。それが地元を愛する力に変わったら良いなと思っている。そうなるように酪農家として何が出来るかを考えながら、活動しています。



……昼食&酪農家自己紹介をはさんで……

酪農体験 ◆岩谷史人さん 智恵さんご夫婦◆

搾乳・人工授精見学・哺乳・子牛の散歩・絵本の読み聞かせを体験しました。ご夫婦の息の合ったコンビネーションに関心されている関係者の方も多く、絵本の読み聞かせでは思わず涙する参加者もいました。



↓思わず「あったかい！」の声



↑酪農家の方にもたくさんお手伝いいただきました。ありがとうございます！

↑体験の最後は絵本「いのちをいただく」の読み聞かせ

ディスカッション&発表会

酪農講座や体験を踏まえて、自分だったらどんな授業をして子ども達に何を感じてほしいかをテーマに、参加の先生に実際の授業作りについてグループディスカッションを行い、最後に発表していただきました。ディスカッションの間、別会場では酪農関係者同士で「いのちの伝え方」について議論がされました。



……感想発表会・アンケートより……

参加者からの声

- ・総合的な学習等で体験として受け入れてくれるファームもあるとわかって良かった。野上先生、竹中先生のお話から具体的な実践もわかったし、山際先生のお話により栄養教諭との関わりもはっきりした。
- ・見て、触って、嗅いで、座学では知りえないことを経験できる内容で良かった。
- ・自分とは違う視点の意見はとても参考になりました。
- ・見るだけでなく体験(ふれる、かぐ、聞く等)は、子ども達に「生きる」を感じさせてくれる。
- ・ぜひ取り入れたいと思います。低学年でしたら体験学習として、体験重視で。高学年でしたら、「酪農から見える社会」としての視点をもった学習として活用してみたいです。

酪農関係者からの声

- ・他の方が教えている姿を客観的に見れる機会がなかなかないので、岩谷さんのお話を聞き、新しい発見や学びがたくさんあり、自分の仕事に生かそうと思いました。
- ・実際の学校の現場での取り入れ方の座学と、体験の組み合わせでより研修会の内容が濃くなったように思う。
- ・最後に教員が思ったことや学んだ事が聞けて良かった。子供に体験の感想を聞くことは多くても、先生方の感想はなかなか聞けないので、もっとこういう話を取り入れようなどと考える機会になりました。
- ・先生と酪農家の交流時間をもっとあればよい。
- ・酪農という仕事がある。農業が無くなると人は生きていけない。この職は楽しいヨ。ということを伝えたい。

酪農を学ぼう！

会場：とわの森三愛高等学校附属農場



8月19日(金)、札幌市及び近郊の大学の学生を対象とした酪農体験研修会が、江別市にて行われました。今年で3年目の取り組みとなる当研修会は、酪農家を目指す高校生が、将来栄養教員になるために日々勉強をしている大学生を相手に、酪農体験を行います。過去2年、高校生が受け持つ体験も、座学も、内容を少しずつ変えながらパワーアップしており、3年目となる今年は、酪農家・酪農家を目指す高校生・栄養教員を目指す大学生それぞれの立場の理解を深めるために、午前中にパネルディスカッションを行い、午後からの体験やグループディスカッションにつなげました。今回ご参加いただいた方々は以下の通りです。

- リバティヒル広瀬牧場 廣瀬 文彦 氏
- (社)北海道栄養士会 山際 睦子 氏
- 高橋体験牧場 高橋 育男 氏
- 山岸牧場 北出 愛 氏
- 北海道牛乳普及協会 土井 まり 氏
- 北海道農政部 生産振興局 畜産振興課 九島 有梨華 氏、直井 智生 氏
- むらかみ牧場 村上 隆彦 氏
- レークランドファーム久保牧場 久保隆幸 氏
- (株)ベイリッチランドファーム 浦 薫 氏
- とわの森三愛高等学校 教諭 伊藤 有輝 氏

他事務局 4名

午前の部スタート！



開会の挨拶 ◆広瀬文彦 委員長◆

身近な牛乳・乳製品は実はすぐく沢山の努力と人出がかかって皆さんのもとに届いている。そういう牛乳の価値を今日は存分に体験の中で味わっていただきたいと思っています。



講話「牛乳が届くまで」 ◆ホクレン 高橋伸彰さん◆

簡単に買えるおいしくて新鮮な牛乳。その裏にある酪農家や関係団体の努力など、牛乳独自の流通の仕組みを簡単に説明していただきました。

酪農家の話 ◆村上隆彦 副委員長◆

酪農教育ファームが出来た背景や、どういった組織なのかを、わかりやすく説明していただきました。



いろんな小学校に行っている中で、搾っている私たち酪農家と飲んでいる皆さんとの距離が意外と遠いと感じる。是非頑張って栄養教員になっていただいて、今度は子ども達にただ牛乳のことでなく、どうやって搾られているのか、どういう風にして子供たちの口まで届いているのかを伝えられる、そんな先生になってほしい。そういう意味で私たちの応援団の一員になってくれることを期待しています。

パネルディスカッション

会場にいる全員にとって身近である“牛乳”をテーマに選び、村上さん・山際先生の司会進行のもとスタート。パネルだけでなく傍聴者にも質問をふったり、酪農家・高校生・大学生がそれぞれ普段どうしているかなども知ることが出来て、初対面の人が多い会場が馴染むきっかけとなりました。



「楽しい」を共有することを大切に体験を受け入れています。

体験後の小学生からの感想文を読むのが夫婦の楽しみです。

↑酪農家パネラーとしてご登壇いただいた北出さん、浦さん



↑大勢の前でお話をしてくれた学生パネラーのみなさん(大学生・高校生 各2名)

酪農体験

教育ファーム班の高校生14名が内容を考え、今回は搾乳・ブラッシング・エサやり・バター作りを行いました。伝える側の高校生はブラッシング時、大学生の真横に寄り添い同じ視線で丁寧に話をしたり、「人間と一緒に、」という言葉を多用して大学生にも想像しやすい言葉で一息懸命に説明しているのが印象的でした。また、今回初めて牛について詳しく知った大学生は、特にエサやりの時に質問や「へー！」という言葉がよく聞こえてきました。牛が普段何を食べているのかや、成長や体調にあわせて一頭ずつエサの管理がされていること、牛の胃は4つもあってその内の1つは人の胃と同じ働きをしているなど、普段人の体や食べ物を勉強している大学生ならではのポイントで驚きや発見があった様子でした。



グループディスカッション&発表会

午前中の講義や酪農体験を終えて、高校生と大学生混合の3グループに分かれてディスカッションがスタート。将来何かを“伝える側”になるという共通点のもと、今回の研修会を振り返ってもらいました。高校生主導で始まり、大学生からも自由に質問や発言をしながらのディスカッションは、終始笑いが絶えず、和気あいあいと話し合いが進んでいる様子でした。



・・・感想発表会・アンケートより・・・

高校生からの声

- ・酪農は大変だけどやりがいがある仕事だということを知りたい。
- ・年代に合わせて言葉や内容を考える工夫をして伝えたい。
- ・大学生が積極的に質問してくれて嬉しかった。
- ・普段教える立場だが、今回教えるという立場になり、どれだけ難しいことか分かった。
- ・私たちが予想しなかったところでも、大学生は疑問に思ったり楽しんでくれたりしていた。

参加者(大学生)からの声

- ・牛乳を出すのは牛なので、牛への思いやりが大切であるということがわかった。
- ・伝える難しさが一番印象に残った。専門用語を使えないから簡単に伝えるのが難しい。
- ・将来、「いのち」をいただいていることを意識して、食べ物を大切にすることを伝えていきたい。
- ・牛にもサプリがあることと、酪農家あまり牛乳を買わないことに驚いた。
- ・教育実習で牛乳やカルシウムのことを子どもたちに伝えることはあったが、牛について伝えてこなかった。今回の研修会に参加して、牛乳を身近に感じてもらうには、まず牛のことを知る必要があると感じた。
- ・人間と牛があまり変わらないことに驚いた。

酪農関係者からの声

- ・全体の流れを含めて統一感がありました。
- ・2年生が3年生をサポートする高校生の姿が頼もしかった。
- ・質問に答えられなくて反省していたが、これから更に学ぼうというところが見えてよかった。
- ・大学生に事前に聞きたいことをアンケートでとっておいた方が、より大学生目線の研修会にできるのではないかと思います。
- ・バター作りの方法はもう少し考えた方がいいのではないかと。(出来上がりの量が多い→ムダになるものがあった。)

関係者の皆様のご協力のもと、今期も2つの研修会を無事に終えることが出来ました。ありがとうございました。残念ながら今回ご参加いただけなかった方も、また来年ご検討の程お願いいたします！

事務局通信アンケート

(平成 28 年度)

ご返信先

酪農教育ファーム北海道事務局

FAX : 011-241-6778

TEL : 011-218-6023

今回のお便りはいかがでしたか？今後の活動内容や掲載内容をより充実させていくため、皆様のご意見をお聞かせ下さい。

以下のお好きな欄にご記入の上、FAX でご返信下さい。

牧場名
と
お名前

1. 掲載内容についてご感想やご意見、ご要望がありましたらご記入下さい。(こんな内容を書かせてほしい、こんな情報がほしい、字が小さい等)

2. 皆さんの牧場自慢や教育ファーム活動の体験談、オススメのプログラム等ありましたらご記入下さい。

3. 推進委員会主催の研修会や活動について、こんな内容をやってみたい、ここで開催してくれたら参加できるのに等、ご意見、ご要望がありましたらご記入下さい。今後の参考にさせていただきます。

4. その他、酪農教育ファーム活動や事務局へのご意見等自由にご記入下さい。